



Graduate School of Yamazaki University of Animal Health Technology

ヤマザキ動物看護大学大学院

Graduate School of Animal Health Technology

動物看護学研究科

Animal Health Technology Course

動物看護学専攻（修士課程）

動物看護学領域

動物人間関係学領域

2026

（令和8年度）



1967（昭和42）年12月10日、創始者の自宅応接間でスタートした本学園。
建学の精神と教育理念には、戦後の日本において「命」の教育を行い、「技術」だけではない、
生命観や自然観に支えられた「全人格的な教育」をめざした創始者の想いが込められています。

学園の父であり母である創始者



創始者
山崎 良寿
1919～1990



創始者夫人
山崎 緑
1923～2020

建学の精神

「**生命への畏敬**」「**職業人としての自立**」

“人間は、地球上に存在する多種多様な生命に対し、尊敬の心を持ち、生態系の摂理の中で生かされている生命であるという思想のもと、共に生きるものに限りない愛を注ぐ”この精神を通して、調和のとれた平和な社会の建設に寄与する豊かな人間性と、幅広い視野を持つ人間教育を行う。

教育理念

「**いのち 生命を生きる**」

動物愛護の精神のもと、人間が自分たちよりも小さな弱い立場の生命に思いやり
の心を忘れず、動物たちと豊かに共生すること。

大学院修士課程の概要

【大学院名称】ヤマザキ動物看護大学大学院

【研究科・専攻・定員】

研究科	専攻	修業年限	入学時期	入学定員	学位
動物看護学研究科	動物看護学専攻	2年	4月	5名	修士 （動物看護学）

教育研究上の理念及び目的

- ア** 教育研究上の理念は、生命を尊重する倫理観を備え、幅広い視野と創造性をもった豊かな人間教育を行うことである。
- イ** 本研究科は、法制化された愛玩動物看護師がチーム動物医療において果たす役割に鑑み、動物看護学に関する学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。
- ウ** 本研究科は、人と動物の豊かな共生社会を構築するため、人と動物の関係に関する学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。
- エ** 本研究科は、動物看護師の養成所（専修学校等）、動物病院、動物関連企業及び動物関連団体等に従事し、公衆衛生の教育・指導に貢献するため、学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。
- オ** 本研究科は、ペット関連産業界（動物医療を含む）の発展のために、動物看護学及び動物人間関係学の研究を深く追求し、2領域の指導者を養成することを目的とする。

動物看護学研究科の特色

動物看護学研究科 動物看護学専攻（修士課程）の教育課程を編成する3つの枠組み



動物看護学領域とは

教育研究において、**動物医療・動物の健康**を対象範囲とし、
『「愛玩動物看護師法」及び「動物の愛護及び管理に関する法律」に則り、
生命を尊重し、愛玩動物を対象に高度チーム動物医療を支え、
獣医師の指示の下、診療の補助及び疾病にかかり、または負傷した
愛玩動物の世話、看護』を定義とする。

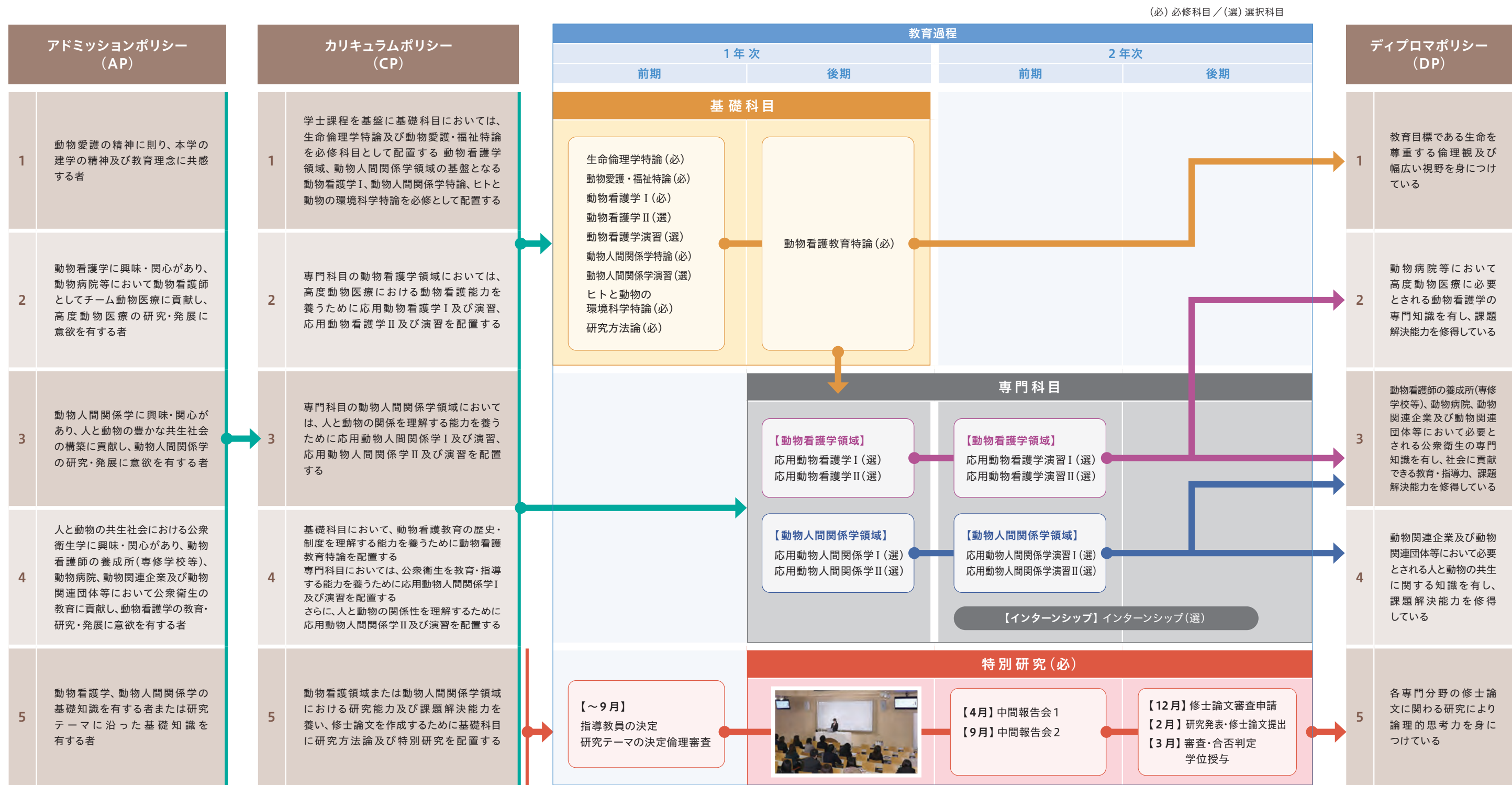
動物人間関係学領域とは

教育研究において、**人と動物の共生社会に関するもの**を対象範囲とし、
『「愛玩動物看護師法」及び「動物の愛護及び管理に関する法律」に則り、
生命を尊重し、友愛及び平和の情操の涵養に資するとともに、
人と動物の共生する社会の実現を図り、動物の適正飼養及び
人の生活環境の保全』を定義とする。

■養成する人材像

- ア
- 建学の精神と教育理念に則り、生命を尊重する倫理観を備え、社会に貢献する人材
- イ
- 動物病院等に従事し、動物看護師として、高度動物医療の研究・発展に貢献する人材
- ウ
- 動物関連企業及び動物関連団体等に従事し、人と動物の共生に関する研究・発展に貢献する人材
- エ
- 動物看護師の養成所(専修学校等)、動物病院、動物関連企業及び動物関連団体等に従事し、公衆衛生の教育・指導に 貢献する人材
- オ
- 研究により身につけた論理的思考力をもって、発展するペット関連産業界(動物医療含む)に貢献する人材

動物看護学研究科 動物看護学専攻(修士課程)の教育課程を編成する3つの枠組み



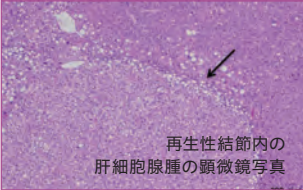
動物看護学研究科が取り組む研究

動物看護学領域



動物がん看護における動物看護師と飼い主の信頼関係構築に関する研究

研究指導教員 梅村 隆志 教授（動物病理学分野）



肝再生巣を母地とする肝腫瘍形成過程の分子病理学的解析

研究指導教員 梅村 隆志 教授（動物病理学分野）

動物人間関係学領域



森林部から市街地にかけての中大型哺乳類相とニッチ重複

研究指導教員 村上 隆広 教授（野生動物学分野）



ペットロス回復支援に向けた繋がりと場の研究—持続可能な SHG の要件とは—

研究指導教員 新島 典子 教授（ペットの社会学分野）



鷹の文化誌—日本の古代および中世における鷹の両面価値性に関する研究—

研究指導教員 島森 尚子 教授（動物文化分野）

以下の学科で学んだ方たちも本大学院で関連分野の研究ができます

動物看護学部

論文作成に必要な動物看護の知識修得のため、本学の動物看護学部の科目等履修制度を利用することができます。
費用は1科目あたり2,000円です。

例

- 獣医学科 ●獣医保健看護学科 ●アニマルサイエンス学科 ●動物危機管理学科
- 動物生命薬科学科 ●臨床検査技術学科 生命動物学科 ●医療工学科 動物看護学コース
- 動物科学科 ●食品ビジネス学科 ●食品科学科 ●食と健康学類

動物看護学領域

例

- 獣医学科 ●獣医保健看護学科 ●アニマルサイエンス学科 ●動物危機管理学科
- アニマルバイオサイエンス学科 ●くらしの生物学科 ●動物資源科学科 ●生命環境学科
- 心理・行動科学科 ●美学美術史学科 ●社会学科 ●国際文化学科 ●芸術文化学科

動物人間関係学領域

カリキュラム詳細

動物看護学研究科カリキュラム

(必) 必修科目 / (選) 選択科目

科目		担当教員	
1 年 次	基礎科目	生命倫理学特論(必)	新島典子・加藤理絵・安藤孝敏
		動物愛護・福祉特論(必)	三井香奈
		動物看護学Ⅰ(必)	今村伸一郎・梅村隆志・近藤昌弘
		動物看護学Ⅱ(選)	鈴木光行・伊藤直之・櫻井富士朗・小嶋佳彦
		動物看護学演習(選)	梅村隆志・今村伸一郎・櫻井富士朗
		動物人間関係学特論(必)	山崎薫・長島孝行・島森尚子・村上隆広・新島典子・フリッツ吉川綾・早田由貴子・小嶋篤史
		動物人間関係学演習(選)	長島孝行・島森尚子・村上隆広・新島典子・フリッツ吉川綾
		ヒトと動物の環境科学特論(必)	石川牧子・山田文也
		動物看護教育特論(必)	山崎薫・山田文也
		研究方法論(必)	梅村隆志・今村伸一郎・伊藤直之・鈴木光行・山田文也・島森尚子・村上隆広・新島典子
専門科目	応用動物看護学Ⅰ(選)	今村伸一郎・梅村隆志	
	応用動物看護学Ⅱ(選)	鈴木光行・櫻井富士朗	
	応用動物人間関係学Ⅰ(選)	山田文也	
	応用動物人間関係学Ⅱ(選)	長島孝行・島森尚子・村上隆広・新島典子・フリッツ吉川綾	
特別研究	特別研究(必)	梅村隆志・今村伸一郎・伊藤直之・谷口明子・鈴木光行・木村祐哉・長島孝行・村上隆広・山田文也・島森尚子・石川牧子・新島典子	
2 年 次	専門科目	応用動物看護学演習Ⅰ(選)	梅村隆志・今村伸一郎
		応用動物看護学演習Ⅱ(選)	鈴木光行・櫻井富士朗
		応用動物人間関係学演習Ⅰ(選)	山田文也
		応用動物人間関係学演習Ⅱ(選)	長島孝行・島森尚子・村上隆広・新島典子・フリッツ吉川綾
		インターンシップ(選)	梅村隆志
特別研究	特別研究(必)	梅村隆志・今村伸一郎・伊藤直之・谷口明子・鈴木光行・木村祐哉・長島孝行・村上隆広・山田文也・島森尚子・石川牧子・新島典子	

● 修了要件

基礎科目においては、必修11単位に加え、選択4単位の中から2単位以上修得する。
専門科目においては、動物看護学領域・動物人間関係学領域のそれぞれから2単位以上修得の上、専門科目(選択科目)全体で9単位以上修得する。
以上の基礎科目と専門科目に加え、特別研究10単位を修得し、修了要件は32単位以上とする。
特別研究については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を修得する。



科目紹介

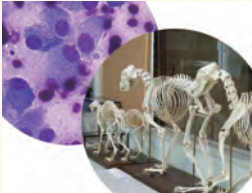
■基礎科目

生命倫理学特論 (必修)



動物看護領域の主導的な職責遂行に必須の、生命倫理の理解と応用的実践力を学修する。伴侶動物を含む全動物種への畏敬の念や愛護の精神を、生命倫理の知識を礎に醸成する。

動物看護学Ⅰ (必修)



動物看護学を学問として発展させるために、基礎の3本柱となる解剖学・生理学、病理学及び薬理学分野の基礎研究について学び、愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える。

動物看護学演習 (選択)



動物看護学領域の解剖学・生理学、病理学、内科学分野における研究課題を紹介し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、当該分野における研究の意義を理解できるようにする。

動物人間関係学演習 (選択)



人と動物のつながりを、教員が著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、遺伝子・ゲノム情報データベース利用・解析などから理解する。学生自らが把握した情報について討論、発表を行う。

動物看護教育特論 (必修)



動物看護学を修めた卒業生が動物看護学を教授する時代を迎え、長い歴史をもつ人間の看護教育における指導者育成の教育体系を参考に、国内外の動物看護教育の歴史及び動物看護教育制度の現状や課題について教授する。

動物愛護・福祉特論 (必修)



動物愛護・福祉の基本概念に注目し、動物に対する人々の考え方は多様であることを理解させ、動物の生活の質をより良くするためには科学・倫理・法規の3分野の向上が必要であることを理解させる。

動物看護学Ⅱ (選択)



愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える指針となる、動物医療における研究法や臨床手技に関する内容について、研究データに基づいて具体的に詳しく教授する。

動物人間関係学特論 (必修)



「動物と人間の関係性」のテーマを、アニマルセラピー、分子生物学、動物行動学、文化人類学、社会学、愛玩動物(犬、猫、鳥)の特性などの各分野における幅広い研究手法に基づいて解説する。

ヒトと動物の環境科学特論 (必修)



本特論では、これまでどのような環境問題が発生し、それらの問題に対してどのような対応がなされてきたのかを動物看護学分野と関連づけて教授する。

研究方法論 (必修)



動物看護における研究を実施するための方法論や文献情報の収集法について、各分野別に学修し、これらの学修に基づいて、特別研究のテーマ選定の一助とする。

■専門科目／特別科目

応用動物看護学Ⅰ (選択)

動物看護学領域



解剖学、生理学、病理学は、医学や獣医学を学ぶ基礎・土台となり、動物看護学を学ぶ上で極めて重要である。これら基礎知識をさまざまな臨床場面で応用ができるようにする。

応用動物看護学Ⅱ (選択)

動物看護学領域



愛玩動物の各種疾患の病態に応じた専門的看護の研究を推進するための理論・実験法・看護法についての理解を深め、修士論文執筆に備えることができるように教授する。

応用動物人間関係学Ⅰ (選択)

動物人間関係学領域



本講義では人間と動物の共生についての歴史的経緯、現在問題となっているヒトと動物の共通感染症、汚染物質、害獣などの問題点とそれらへの取り組みについて教授する。

応用動物人間関係学Ⅱ (選択)

動物人間関係学領域



動物と人間の関係性について、文化人類学、分子生物学、社会学、動物行動学、動物人間関係学の視点から解説する。秋田犬と人、家庭犬と人、猫と人、鳥と人、現代社会の動物と人の関係について研究論文、成書を紹介し、解説する。

インターンシップ (選択)



ヤマザキ動物看護大学構内に併設されている「ER 八王子動物高度医療救命救急センター」において、Emergency Rescue (救命救急) の高度動物看護医療体制について実践する。

応用動物看護学演習Ⅰ (選択)

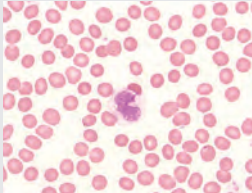
動物看護学領域



動物看護学演習で学修した内容を基に、それら分野の最新知見を検索、入手し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、動物看護学領域においてどのような意義を有するのか自ら考察する。

応用動物看護学演習Ⅱ (選択)

動物看護学領域



演習により、愛玩動物の血液の形態学的及び生理学的な異常を察知し、病態に応じた専門的看護を行うための研究を推進する理論・実験法・看護法について教授する。

応用動物人間関係学演習Ⅰ (選択)

動物人間関係学領域



本演習では、動物関連公衆衛生学分野のテーマについて、学生自らが文献を収集して授業時間中に学生間で討論しあうことにより、自ら問題を解決する応用能力を涵養する。

応用動物人間関係学演習Ⅱ (選択)

動物人間関係学領域



人と動物のつながりについて、長年にわたり保存管理してきた動物種などを扱い、担当教員がそれぞれの分野で著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、文献内容の把握を行う。

特別研究 (必修)



動物看護における研究を実施するための方法論や文献情報の収集法について、各分野別に学修し、これらの学修に基づいて、特別研究のテーマを選定し、修士論文を執筆する。

■修士論文指導担当 専任教員【12名】

動物病理学分野



梅村 隆志
動物看護学研究科長・教授
獣医学博士・獣医師

環境化学物質のヒト安全性を確保することを目的に、実験動物への化学物質暴露による病態発生の毒性病理学的解析から、その毒性発現機序のヒトへの外挿性を考察する。大学院では特に分子病理学的手法を加え、解析結果の精緻化を進める。具体的な研究テーマとして、化学物質誘発による肝臓の再生性増殖性病変における増殖シグナル ON/OFF 機構、慢性増殖性病変の腫瘍化への転帰に係る分子機構の解明などを進める。

【担当科目】
動物看護学Ⅰ／動物看護学演習／研究方法論／応用動物看護学Ⅰ／応用動物看護学演習Ⅰ／インターンシップ／特別研究

動物解剖生理学分野



今村 伸一郎
教授
博士（獣医学）・獣医師

骨格構造に関する研究を主体とし、学部卒業研究では、動物の全身骨格標本作製を通し、動物種差による骨格の特徴の比較を行うことと、透明骨格二重染色標本作製にチャレンジしている。これらを踏まえて大学院では、動物固有の骨格の形態が、その動物の活動様式とどう結びついているのか、部位をフォーカスして探求していく。また、透明標本作製の方法論の最適化を図りつつ、どう応用できるか検討していきたいと考えている。

【担当科目】
動物看護学Ⅰ／動物看護学演習／研究方法論／応用動物看護学Ⅰ／応用動物看護学演習Ⅰ／特別研究

小動物皮膚科学分野



伊藤 直之
教授
博士（獣医学）・獣医師・日本獣医皮膚科学会認定医

犬では皮膚疾患が多発する一方で、普段から皮膚や被毛の状態を客観的に示す明確な基準が示されていないため、傷害された皮膚や被毛の程度評価は、各自で異なっています。皮膚表面の細胞や被毛のマクロおよびミクロ画像の解析によって、臨床現場で応用可能な評価方法の確立とその背景にある病態との関連性を解明したいと考えています。同時に、皮膚細菌叢の dysbiosis と皮膚疾患との関係を明らかにすることにもチャレンジしたいと思います。

【担当科目】
動物看護学Ⅱ／研究方法論／特別研究

生物機能開発学分野



長島 孝行
教授
農学博士

生物は驚くような構造・機能性を持っています。ここではその知恵を解析し、モノづくりやコトづくりにと社会実装を目指します。キーワードは SDG s です。例えば、タマムシ等の色は色素ではなく、構造色によるものです。ですので変色することはありません。このメカニズムを解析し、応用することで自ら発色する素材が出来るのです。これなら塗料が必要ありません。

【担当科目】
動物人間関係学特論／動物人間関係学演習／特別研究
応用動物人間関係学Ⅱ／応用動物人間関係学演習Ⅱ

動物臨床内科学分野



谷口 明子
教授
獣医学博士・獣医師

高度化専門化の著しい動物医療の現場で動物看護師が活躍するために検討が必要な課題をテーマに指導します。例えば、卒後教育充実のための具体的な取り組みや根拠に基づく動物看護の実践教育、二次診療施設を中心に行われているチーム医療における動物看護師の役割など、成果を臨床現場に還元できる研究を目指します。

【担当科目】
特別研究

野生動物学分野



村上 隆広
教授
博士（獣医学）

野生動物学の「難しさ」は、野外で自由に動き回る動物たちの姿をどのように把握し、どのようにデータをとるかという点にあります。その「難しさ」は裏を返せば未知な事実に出会える「面白さ」にもつながります。自然度の高い地域から都市部にかけの林地を利用する哺乳類の研究など、フィールドでの「発見」を大切にしたい研究テーマを選んで指導します。

【担当科目】
動物人間関係学特論／動物人間関係学演習／研究方法論／応用動物人間関係学Ⅱ／応用動物人間関係学演習Ⅱ／特別研究

衛生・公衆衛生学分野

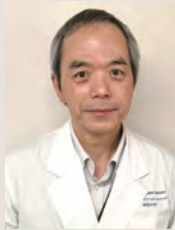


山田 文也
教授
博士（獣医学）・獣医師

衛生学の分野では、健康をヒトと動物、それを取り巻く環境の三つが互いにつながっていると包括的にとらえた One world one health の考えのもと、疾病や環境問題の解決に取り組んでいる。例えば、愛玩動物のアレルギー疾患の増加や鳥以外の鳥インフルエンザの感染などをモニタリングすることで、今後ヒトの健康に影響を与えうる問題か否かのリスク評価を行います。その結果を広く社会へ伝達・還元する公衆衛生活動について実学研究を行う。

【担当科目】
ヒトと動物の環境科学特論／動物看護教育特論／研究方法論／応用動物人間関係学Ⅰ／応用動物人間関係学演習Ⅰ／特別研究

動物検査学分野



鈴木 光行
教授
博士（医科学）

血液検体から得られる多くの情報は、疾患のみならず摂取した食物、運動などの影響を受け変化するものがあります。例えば CK は激しい運動後に、ALP は高脂肪食で高値になりますが病気ではありません。これらのように、疾患以外でも検査値は異常値を示す例があります。動物種によっては、同じようなことが起こり得ると考えられるので、医療過誤防止のために多角的視点から検討したいと考えます。

【担当科目】
動物看護学Ⅱ／研究方法論／応用動物看護学Ⅱ／応用動物看護学演習Ⅱ／特別研究

動物文化分野



島森 尚子
教授
修士（文学）

私が研究のフィールドとしている18世紀の英国では、自然科学が体系化されて、宗教、哲学、文学、音楽、美術など、同時代の幅広い分野に強い影響を与えた。愛玩動物の品種改良もその結果と言えるが、実は同時代の愛玩動物に関する英語文献は、十分に調べ尽くされたとは言えない。当研究室では、主として文字情報からなる一次資料を分野横断的に扱い、動物と人間の関係にかかわるテーマの設定、論文執筆から完成に至るまでの過程を丁寧に指導する。

【担当科目】
動物人間関係学特論／動物人間関係学演習／研究方法論／応用動物人間関係学Ⅱ／応用動物人間関係学演習Ⅱ／特別研究

海洋生物学分野



石川 牧子
教授
博士（理学）

現在の地球上に見られる生物多様性は、長い進化の歴史の中で培われてきました。その進化の駆動力として、地球環境変化や生物間関係（競争、捕食、共生など）が注目されています。私たちの研究室では、特に海洋生物に注目し、生態や、多様なかたち、色彩の形成メカニズムの解明を目指しています。また、それらの進化の道筋、適応的意義や環境変化への応答を探る研究に取り組んでいます。

【担当科目】
ヒトと動物の環境科学特論／特別研究

ペットの社会学分野（死生学）

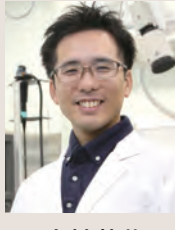


新島 典子
教授
修士（社会学）・専門社会調査士

動物、主に愛玩動物をめぐる社会問題に対し、臨床社会学の視点から相互行為論的アプローチ等を探っている。例えば、伴侶動物の介護支援、ペットロスの辛さ軽減に向けた予防や対処等を検討するため、国内外の先行論文、書籍、記事等を分類する文献調査、現地での参与観察、関係者への聞き取り調査等を行っている。この他、動物霊園、老犬老猫ホーム、動物カフェなどの動物関連産業も含めた、人と動物の多様な関係性を社会的に扱っている。

【担当科目】
生命倫理学特論／動物人間関係学特論／動物人間関係学演習／応用動物人間関係学Ⅱ／応用動物人間関係学演習Ⅱ／研究方法論／特別研究

臨床疫学分野



木村 祐哉
准教授
博士（医学）・獣医師・認定心理士・ICD

科学的根拠に基づく動物医療の実現を目指し、動物医療の臨床現場に存在する課題に対して、疫学的な視点からアプローチしていきます。動物がどんな場合に病気になるやすいのか、新しい治療法によって病気の予後はどう変わるかといったものが疫学的研究の代表ですが、質問紙（アンケート）や面接（インタビュー）を活用し、動物病院のスタッフや飼育者の認識がどのように治療方針や飼育方法に影響しているかといった、人間心理の探求にも挑戦しています。

【担当科目】
特別研究

■科目担当教員【10名】

●専任教員



山崎 薫 理事長・学長・教授
博士（学術）・動物人間関係学
【担当科目】動物人間関係学特論／動物看護教育特論



フリッツ 吉川 綾 准教授
博士（獣医学）・獣医師・獣医行動診療科認定医
【担当科目】動物人間関係学特論／動物人間関係学演習／応用動物人間関係学Ⅱ／応用動物人間関係学演習Ⅱ



加藤 理絵 准教授
博士（教育学）・臨床心理士・公認心理師
【担当科目】生命倫理学特論



三井 香奈 講師
博士（学術）・愛玩動物看護師
【担当科目】動物愛護・福祉特論

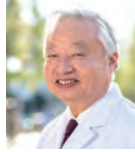
●兼任教員



安藤 孝敏 特任教授
修士（文学）／横浜国立大学名誉教授
【担当科目】生命倫理学特論



小嶋 佳彦 客員教授
獣医師／新潟ねこの病院 院長
【担当科目】動物看護学Ⅱ



櫻井 富士朗 客員教授
博士（学術）・獣医師／日本動物看護学会理事
【担当科目】動物看護学Ⅱ／動物看護学演習／応用動物看護学／応用動物看護学演習



近藤 昌弘 客員教授
獣医学博士・獣医師
共立製薬株式会社 バイオサイエンス研究課エキスパート
【担当科目】動物看護学Ⅰ



早田 由貴子
獣医師／米国 CFA 公認国際審査員 Regional Director/ エルムス動物医療センター名誉顧問 / マウントフジキャットクラブ理事
【担当科目】動物人間関係学特論



小嶋 篤史 客員准教授
獣医師 / 鳥と小動物の病院リトル・バード 院長 / 鳥類臨床研究会 副会長兼編集長 / 日本獣医エキゾチックペット動物学会理事
【担当科目】動物看護学Ⅱ／動物看護学演習

9 Graduate School of Yamazaki University of Animal Health Technology

Graduate School of Yamazaki University of Animal Health Technology

10



大学コンソーシアム八王子 学生発表会にて
優秀賞を受賞

カメラの映像を初めて見た時の 感動は忘れられません

動物看護学研究科 2 期生

新井 一麦さん

学部生の頃に野生動物学、保全生態学の授業を受けたのをきっかけに興味を持ち、フィールドワークを含めた野生動物研究の知識と経験を深めたいと思い、大学院に進学しました。

■修士論文テーマ

「森林部から市街地にかけての中大型哺乳類相とニッチ重複」

キャンパス周辺の野生動物の分布を把握するところから調査を始め、そこから、社会問題になっている中大型哺乳類の市街地進出の経緯や、今後の予想について研究をまとめることになりました。はじめに、広い範囲における中大型哺乳類の分布変化をまとめることで、各種の分布傾向を把握し、そこから、その分布の要因をより詳しく知るために、自然度の違いに注目して自動撮影カメラを設置し、撮影記録を基に周辺の環境や他種との関係性を統計解析しました。入学当初から取り組みがかったカメラ調査ができたことは何よりも嬉しかったです。最も苦労したのは、統計解析です。今回の調査では設置できるカメラ台数に限りがあったため、少ないデータ数を補いながら解析する必要がありました。海外の文献を読みながら時間をかけて取り組むこととなりましたが、統計の奥深さを知ることができ良い経験となりました。本研究を通して野生動物学や自然の魅力、研究そのもののやりがいや面白さを知ることができました。卒業後は JICA の青年海外協力隊にて、環境教育をする予定です。野生動物や環境の魅力、さらには学術研究の面白さなどを、動物に興味がある人をはじめ多方面の方に伝えていけたらと思っています。



研究者としての道を志して

動物看護学研究科 2 期生

阿部 奈緒美さん

系列校であるヤマザキ動物専門学校を卒業後、動物虐待についてより深く学びたいという思いから、3 年次から本学の学部へ編入学し、さらに基礎的研究を続けたいと思い、大学院に進学しました。

■修士論文テーマ

「動物虐待と対人暴力の関連性についての基礎的研究

（日本と欧米における歴史と現状、および対応についての比較）」

学部生の卒業論文では動物虐待をテーマに取り組み、その応用として修士論文では海外へ目を向けることにしました。ペット先進国といわれる欧米と比較するため、欧米での文献をたくさん読み込みました。日本は研究報告が少なく、その文献数の差を証明できたことは結果としてつながりました。ただ、欧米の文献、法律など、欧米からでない元文献まで辿り着けないことが何度かあり、文献からは外さなければならぬこともありました。外国の論文を使う際は引用に気をつけることと、思ったより文献を使えない可能性があることなど、学部論文との違いも学ぶことが出来ました。動物虐待と、児童虐待について、判断の難しいところと賛否両論ある中、修士論文を執筆する際に投稿論文として出せるのか最初から不安でしたが、先生と何度も論文を見返し、添削してなんとか提出することが出来ました。

卒業後は研究者としての道を志し、次は博士課程に進学予定です。幅広い視野で、興味のあることは積極的に参加し、学び、自分の道を見つげたいと思います。



学校法人 ヤマザキ学園

ヤマザキ動物看護大学大学院

〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-7-2
京王相模原線 南大沢駅 徒歩10分

☎ 0120-124979

